

★いよいよ九月、入試まで6ヶ月★

あつという間に夏休みもオリンピックも終わり新学期が始まりました。
3月7日の高校入試までおよそ6ヶ月、中3生は9月12日の学力Aテストでいよいよ入試モードに入ります。11月の学力Cテストまでの3ヶ月間と12月から2月までの3ヶ月間の2段階で高校受験に向かいます。

塾では学力A・B・Cの後にされる三者面談のあとの3ヶ月、冬休みも含めた90日間を本当の受験勉強として取り組みます。なので学力A・B・C結果が志望校決定の基準とは考えていません。

受験モードに入る前に重要なことがあります。それは志望校が明確であることです。いきたくない、いければいいな、では志望高に合格できませんし、当



夏期講座中の8/10,11 北海道学力コンクールを受験 道コンや学力テストの結果をふまえて面談をしています



福士君のお母さんからアイスとジュースの差し入れが！ 今年の夏休みは天気悪い割には暑かったですから。 附属小5年の杏奈ちゃんもいつも元気 早川君が持ってきてくれたカブトムシ。最近、元気がない



6期生の野澤君親子。野澤君も生徒にジュースを買ってくれた。 18期生の廣谷玲さん、高校の先生になってから初めて塾におよそ一人づらしからぬ、パイリティが！ゼリーを沢山。 2期生の三ツ石さん夫妻が札幌から新車を披露しに。400万円！



17期生で歯学部2年生の栗野君、ラグビーで足首を見事に骨折。ようやく松葉杖がとれ、自分でお土産を配ってる！ 6期生の岩瀬君、今年も舟こぎ大会に出場、惜しくも9位！ 8期生で作業療法士の佐々木君、ノートPC買ったので！

然ですが志望校を受験しなければ志望校には入れません。

オリピックでの女子卓球の福原愛、石川佳純、伊藤美誠、女子バドミントンの高橋礼華、松友美佐紀さんたち、あの諦めない姿勢と目標、夢に向かって努力してきた4年間1460日がみんなを感動させたのだと思います。



「シンクロの母」言われる井村雅代コーチは競技スポーツはメダルを獲ることだけが目的でない。大切なのは心の教育。だと。そしてゆとり教育の弊害を嘆く。そう、ストイックな子がいないの。「みんな仲良く」が好きだもん。ストイックな部分が消えてしまつて、それはゆとり教育の失敗ですよ。そしてさらに問題

はゆとり教育の世代が親になっていく。それは最悪。ゆとりがゆとりを教育するということはもう全然ダメや思いますよ。

今の平均的な若者はおかしい。それに大人たちは機嫌とっているみたい。やっぱり腹くくれないから、シンクロでも、言いたいけど、言ったら辞めるから言わない。・・・みたいな。

子どもが育つ中でどんな人と出会ったか、どんな信念を持った親に育てられたかというのはその子の運命よね。子どもは親を選べないから気がつけばその親の子になっている。一本筋の通った親に育てられれば、子どもはそうやって育っていくし、やっぱり心が一番大事やね。

私が以前、心がけさせたのは、本物に触れさせることです。別に何でもいいの。見せかけのものじゃなくて、本物を見せました。本物をやっている人は皆、本気です。だから、それを見た時に凄く感動する。例えば舞台を見たりすることは自分への投資。自分の中に見えないものに対して投資をすることだ。

『感動』とは「感じて自分も動く」ことです。スポーツを見て、映画を観て、本を読んで「感動」したと思うなら、自分も何かに向かって行動することです。それがなければ、それは「感動」ではなく、ただの「感」に過ぎません。

勉強も全く同じです。将来に対する夢や目標を決め、その夢や目標に向かって一歩ずつ、日々努力することが夢の実現や目標に達成に繋がります。

高校生のときに立てた目標を実現した廣谷玲さん(富原中・湖陵・藤女子大)が4月に北斗市の北海道大野農業高校の先生になってから初めて塾に来てくれました。

大学生のときより更に大人になったというか、逞しくなったというか、やる気満々で生き生きしていて自信に満ち溢れているように見えました。
新人教師でありながら進路指導部に所属しているということから彼女が先輩の先生方から信頼されていることがわかります。大学時代に同級生たちから「姉さん」と呼ばれていたということから彼女がみんなに信頼され頼られる存在だったことが分かります。



大野農業高校の敷地面積は東京ドーム10個分の広さで、桜並木もある自然豊かな環境の中に畑や水田、牛など農業に関するあらゆる施設や設備があるそうなんです。それ程学力の高い学校ではありませんが生徒たちと農業実習も含めて毎日、本音で楽しくやっています。彼女がそれだけではなく来年は社会福祉士の資格や高校の障害支援学級の先生の資格も取ると言っていました。

一度しかない人生、自分の好きなこと、やりたいことを見つけてそれに向かって努力すればみんなも廣谷さんのようになることが出来ます。高校生は、より自分の将来が近づいています。とにかく今やれることをやりましょう！



30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木
			●富原定期テスト				●美原定期テスト		●美原・共栄定期テスト	●阿寒定期テスト								■中3学力Aテスト	■1000分特講	■1000分特講		●鳥取西定期テスト		●湖陵定期テスト(9日)	●北陽定期テスト(8日)			●景中定期テスト	
<p>8/11 作業がほぼ終わりました 津波の避難場所がなくなった</p> <p>中学生クラス 定期テスト前 1000分特講</p> <p>■9月の予定■</p>																													

『プログラミング教育、小学校に必要か』

国立情報学研究所教授新井紀子氏、受け入れ余力を超える、読解力高める学習優先

小学校でプログラミング教育が20年度から必修化される方向です。

「考え直したほうがいい。週に2時間だけとか、中途半端に入れるのはいばいばいけない。すでに小学校には外国語教育も中途半端に導入され、カリキュラムはいっぱいだ。子供が吸収できる能力を超えている」

「英語やプログラミング教育を少し導入したら、グローバル人材が育つと考えるのは幻想だ。大人は自分が好きで関心があることや、身を立って経験があることを子供たちにもさせてみたいと考える。気持ちはわかるが、それは大人の勝手だ。子供たちや学校教育の現場に、受け入れる能力と余裕があるか調べてからでないといけない」

——必修でなければいい？

「ピアノなどの習い事の代わりに学んだり、クラブ活動としてプログラミングに取り組んだりするのは望ましい。スーパーサイエンスハイスクールで理科や数学と並んで情報について学ぶのも歓迎だ」

「文部科学省の有識者会議がまとめた案は、プログラミング教育という科目を新たに設けるとは言っていない。その点に注意してほしい。既存のカリキュラムの中にコンピューターサイエンス的な視点を入れるというのが結論だ」

「例えば算数で習う筆算はアルゴリズムの基本だ。これまではスキルとして筆算を覚えなさいという教え方であったのかもしれないが、なぜこうすると正しい答えが出るのかという別の視点で教える。正しい答えを出すだけなら電卓があればだれでもできる。同様に図工の時間を使って、ロボットを組み立ててプログラムで動かすのもよい」

——いま必要なのは、むしろ文章の読解力だと主張されていますね。

「国立情報学研究所は各地の教育委員会の協力を得て、約1万人の中学生を対象にした読解力のテストを実施している。理科や地理の教科書から例文を集めて正しく理解しているか調べる内容だ。まだ初的なまとめの段階だが、教科書がきちんと読めない子供が半分くらいいるとわかってきた。主語がわからない、指示代名詞が何を指しているのかわからない。現場の先生は気がついており、文科省も危機感を持っている」

「実は海外も同じ課題を抱えている。フランスは教科書や契約書など論理的に書かれた文書をきちんと読め理解できるようにしたいと考え、アナリティック・リーディング（分析的な読み方）を教えることを重視している」

「人工知能（AI）と人間の違いは高度な読解力にある。AIはふわっとした文章は読める。しかし、係り受けが複雑で抽象度が高い文書は、ビッグデータと機械学習という今のAI開発のやり方では読めないだろう」

——AIに負けないためにも読解力が要る？

「仮にあなたが転職を志してシステムエンジニアや公務員になろうとしたら、本やeラーニングでその分野の知識を勉強しなくてはならない。初めて読むテキストは最初は苦勞するだろうが、読みこなしていかなければならない。流動性の高い世の中では読解力を備えて生涯学習できる能力が最も大事だ。読めるというのは漢字が読めストーリーが追えることだけではない。辞書さえあれば、論理的、抽象的に書かれた文章をきちんと理解できるということだ」

——読解力に時間を割いても学力テストでは点数が上がらないかもしれません。

「短期的な成果を求めてはいけない。ゲーム的な問題解決ではなく、考えるための時間が要る。ゆとり教育とは違った観点から教育内容のリストラが必要だ」

「世間では情報技術者が足りないというが、知識の更新を自力できず、仕様書も正しく読めないようなプログラマーではたいていお金を稼げない。プログラムに欠陥があってトラブルを起こす原因はたいていの場合、仕様書がきちんと読めていないからではないか。プログラミングの覚えは少々あるものの、論理的な文章は読めませんという新入社員を産業界も望んではいないだろう」

「グーグルの成功の端緒は、ウェブ検索の手法を比較的簡単な数学を使って大きく改善したことだった。現実社会の問題を数学に結び付けて解く力だ。そうした論理的な思考力や論理的に書かれた文書を読解する力はプログラマーに限らず、だれにとっても大事な能力だと言える」

「道徳」評価、記述式で、文科省会議提言、入試に使わず

文部科学省の有識者会議は22日、2018年度以降に小中学校で正式な教科となる「道徳」の評価方法を示した提言をまとめた。評価は5段階などの数値ではなく記述式とし、入試に使う内申書には記載しないよう求めた。文科省は今月中にも都道府県教育委員会などに通知する。

他の児童生徒との比較による相対評価ではなく、いかに成長したかを重視。記述により、良い点や改善すべき点を指摘して成長を促す「個人内評価」を行うことにした。英語や数学など他教科の評定などとは「基本的な性格が異なる」とし、調査書（内申書）には記載せず、入試には使わないことも強調した。

具体的には、発言や作文などから▽他人の意見を理解しようとする姿勢が見られるか▽読み物教材の登場人物を自分の立場に置き換えて考えられているか——などに着目し判断すべきだとした。

現在「道徳の時間」は教科外に位置付けられており、小学校で18年度、中学校で19年度から「特別の教科 道徳」に移行する。教科書を使って評価する教科となり、有識者会議は15年6月以降、評価方法を議論してきた。

つむぎニュース 2016.7.26

新学習指導要領20年度から、国際化対応、 学び新たに、英語、小3から、時間増

小中高校の学習指導要領の改訂案が1日、固まった。グローバル化や人工知能（AI）の進化が加速する新しい時代に対応できる力を育もうと、小学校での英語教育の充実、多くの高校新科目などを盛り込んだ。対話を通じて「深い学び」を目指すアクティブ・ラーニング（能動的学習）も全教科に導入する。主要科目のポイントをまとめた。（新科目名はいずれも仮称）

小学校では現在「外国語活動」として5～6年で「聞く・話す」が中心の英語指導を週1コマ行っているが、改訂案では3～4年に前倒しする。5～6年では外国語活動に代えて「外国語（英語）」を正式な教科とし「読む・書く」も含めて教える。3～4年では英語に親しみ、5～6年では「アルファベットの文字や単語」「国語と英語の音声や語順の違い」といった内容を系統立てて学ぶ。

授業時間は3～4年は年35時間（週1コマ）、5～6年は現在の2倍の年70時間を充てる。他教科の時間は減らさないため、3～6年生は年35時間の純増となる。特に高学年は授業時数に余裕がなく、35時間をどう捻出するかが課題だ。

文部科学省は各学校の判断で15分程度の短時間学習と60分授業（通常は45分）を組み合わせた土曜日を使ったりすることを想定。児童や教員の負担を抑えつつ時間を確保し、授業の質を高める必要がある。

そのため、同省は学校が教育課程を組織的に改善・充実させていく「カリキュラム・マネジメント」を重視。7月に有識者会議を設置して議論を始めた。

中学・高校の授業が文法や単語の知識に重点を置いていた点も見直す。中学では英語による授業を基本とし、具体的な場面を設定して単語などを使う学習を増やす。高校には聞く・話す・読む・書くを総合的に扱う必修科目「英語コミュニケーションI」を新設。発信力を養う選択科目「論理・表現」も新たに設ける。

日本の生徒は中国や韓国などに比べて学ぶ単語数が少ないとの指摘がある。改訂案では高校卒業時（選択科目も全て履修した場合）で4千～5千語程度を新たな目標とし、現行の3千語程度から増やす。

正解なき問い 考える力養う 勝山元照・神戸大付属中等教育学校副校長の話

文部科学省の研究開発校として2013年度から、日本史と世界史を融合した「歴史基礎」を高校1年生に教えている。「世界各国に国民国家が成立した時期は」「日本はいつなら戦争を回避できたか」といった問いを單元ごとに立て、教師主導の学習、調査、グループ討論を組み合わせた授業を展開。正解が1つではない問いを考えさせている。

高校の新科目「歴史総合」のポイントは現代のテーマを長期的な視野で考えることだろう。そのためには1時間単位で区切る授業ではなく、数時間をかけて歴史を単元で捉える仕組みが効果的だ。

例えば東アジアの近代化というテーマなら、日中韓それぞれの国の事象の捉え方を意識させるといった工夫が考えられる。2科目を統合しても覚える用語を増やす必要はない。暗記中心の学習から生徒が調べて考え、発表する授業への転換が重要だ。

つむぎニュース 2016.8.26